

アルプス公園における児童教育について

～遊んで学んでみんなで里山づくり～

一般社団法人 里山保育 ひなたぼっこ

神澤 真江

里山の暮らしの中にこそ、子どもの健やかな育ちがある

- 里山の暮らし（生活の知恵を生かし、自然と共生する）

古来から人は、衣食住全てにおいて、自然界のものを工夫を凝らしながら利用し生活してきた。

土器、竹細工、わら草履、木の家具や農機具、綿で布団や布、麻や羊毛で衣類を作る。

森でキノコや山菜、木の実、薬草の採取、田畑を耕し米や麦を育て、野菜の栽培をする。



必要な物は自分の手で作ることができる。しかも再生可能で自然に戻るものばかり
必要な資源はすべて自然の中にある。私たちの生活は自然と切り離せないもの



子どもが育っていく過程に、この感覚を持つことは非常に大切である。

お金を出せば何でも買える時代に、敢えて時間をかけて手作りするという、

日本古来の丁寧な暮らしそのものが日本の文化であり、SDG'sの実践である。

暮らしが育む子どもの感覚

手仕事や家事仕事（掃除・料理・木工・裁縫等）は・・・
手先（＝第2の脳）や全身を使って、
プロセスを考えながら（⇐思考の訓練）
ある目的に向かって行動すること（⇐持続力や実行力）

それは・・・

- ・未来をイメージする発想力（想像力と創造力を育む）
⇒人の気持ちを理解する感覚、状況を察する力となる
- ・道具に合わせた動きを体感（多様な運動感覚を育む）
⇒自分を律して、他者に合わせて行動するもとなる
- ・多様な素材に触れる感覚体験（豊かな触覚体験）
⇒多様な人や状況に応じた思考力と行動力が育まれる



実体験に基づく多様な感覚体験を積み重ねて
培われた豊かな生活経験は

自分自身で人生を創造していく力となる

（自然素材で手作りされたものは壊れても修復が可能＝
失敗しても人生はいくらでもやり直しができるという感性に通じる）



【季節の行事】



1月 三九郎



5月 麦の手刈り



9月 糸車体験



10月 羊毛の草木染め



6月 保護者も一緒に
手植えの田植え



12月 しめ縄づくり



1月 餅つき



10月 ピザ窯でピザづくり



1年を通しての活動
日干し煉瓦を作り、竈とピザ窯づくり



11月こんにゃく作り



5月 園庭の梅の梅干しと
梅ジュース作り



11月 そば打ち体験



10月 手作り体験 マルシェ



7月 沢遊び



道祖神様の七夕飾り



9月 親子で散策 ↓



5月 春の散策



9月 蝶結びで作る ツリーハウス



10月 森のお弁当作り



↑葉っぱや木の実を集めて
空き箱に素敵に詰めてお弁当にする↓



神澤からの提案

～遊んで学んでみんなで里山づくり～

をキャッチフレーズに公園サポーター及び公園ボランティアを公募

☆目指すところは・・・国営アルプスあずみの公園 の さとやま楽校

【専門家集団の各団体が協同で活動することのメリット】

- ① 1 団体では年間を通じて活動しても、イベント内容や回数的なものが限定されてしまうが、参画する各団体の代表（公園サポーター）が定期的に集まり、年間を通してイベント計画をたてることで、多様な年齢層に様々な体験活動や多角的な学習の機会を提供できるようになる。
- ② あずみの国定公園のチラシのように、指定管理者または市のバックアップで大きく広報をして参加者を募る方が、個人の団体レベルで広報するよりも集客がしやすい。国定公園は安曇地区だけでなく、松本市など広域の幼稚園・保育園・小学校など、すべてにチラシを配布している。
- ③ 協同で計画を立てることで、北側拡張部全域にわたって幅広く利用してもらうことができる。
- ④ 活動団体である公園サポーターが主体的になり、定期的に活動を継続するようになれば、自分たちのフィールドを整備していきたいという意識も芽生えるし、参加している方たちが公園ボランティアとして公園を支えていく側になることも期待される。

国営アルプス公園の場合（さとやま楽校）

田んぼの教室（みのむしの会、岩原の自然と文化を守り育てる会、協力：岩原盛りあげ隊）	全6回
やまこの教室（やまこの学校、協力：環境市民ネットワーク）	全10回
里山いきもの教室（三郷昆虫クラブ、協力：信州生物多様性ネットきずな、安曇野市文化課）	全5回
案内人の教室（NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団、協力：安曇野案内人倶楽部）	全5回

参加費：無料～年間5,000円（入園料の減免や割引のある年間パスポート）

参加特典：収穫したお米、生き物オリジナル模型、フィールドノート、ガイドテキスト →楽しく遊び、学んで、しかも特典付き

アルプス公園の場合

公園サポーター

- ・年間通して北側拡張部における体験活動を計画する（月に1回の会合を持ち、フィールド整備関連も専門家の立場で長期的に計画する）
- ・松本地域で専門的に活動している方や法人、市民団体を一般から公募
- ・有償ボランティアとする。またはサポーターは古民家及び森の入り口休憩所の貸切利用を無料にする（参加者からは参加費をとる）
（自然活動体験に関する専門家）信州ビオトープの会、ひこばえの会、松本むしの会、寿さと山くらぶ、体験創庫かけはし、日本野鳥の会
ネイチャリングフェスタ実行委員会、乗鞍高原ガイドのやまたみ、体験学校ぷらす、希少生物愛好会
（音楽関係者）三日満月、森のすなふきん 山田証さん、オカリナ奏者（樹音）、chuichui、チャーリー宮本
（ものづくり関係者）クラフト作家（クラフトフェア実行委員会）、もりのくらふと、kobito、羊毛作家、革細工、竹細工（みすず細工）

公園ボランティア

- ・広く一般から公募（市の広報、生協や生活クラブにチラシ配布、大学の掲示板、市民団体からの推薦や口コミ）
- ・信州大学のボランティアチーム（教職センター荒井先生）に協力を仰ぐ
- ・フィールド整備に関しては有償チーム（チェーンソー使用の伐採や玉切れ、高所作業など）と無償ボランティアチームと分ける